

研究課題名	大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術患者の血行動態変化と予後予測の研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科循環器内科学 教授 中野 由紀子
研究期間	倫理委員会承認後～ 2026年 3月 31日
対象者	2015年4月から2025年3月の間に、広島大学病院で大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル大動脈弁挿入術（TAVI）の治療を受けられた患者さん
意義・目的	重症大動脈弁狭窄症は手術介入ができない場合、予後不良な疾患です。以前より開胸による外科的大動脈弁置換術が行われていますが、高齢患者さんなど開胸手術のリスクが高い患者さんに対しては経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）が普及してきました。しかしながら TAVI 後に心不全を発症、再発する方もいます。また大動脈弁狭窄症の患者さんは冠動脈疾患を併発することが多いですが、TAVI 術前の冠動脈の虚血評価は困難であり、TAVI 後もそのまま見過ごされ介入されないといったことも心不全の発症、再発にかかわる要因となります。本研究により TAVI 術前後の右心カテーテル検査結果を詳細に比較検討すること、またその変化をもとに冠動脈の虚血に及ぼす影響を検討し、TAVI 後患者のより詳細な予後予測因子を明らかにすることで、患者さんの予後改善に貢献できると考えられます。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は身長、体重、性別、身体所見、併存疾患、血液検査、心電図、心エコー検査、CT 検査、冠動脈造影検査（FFR angio）、右心カテーテル検査、手術記録、治療経過です。取得した情報は、氏名・住所・生年月日等の個人情報情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。
共同研究機関	ありません。
利用または提供を開始する予定日	実施許可日以降
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-1564

広島大学病院循環器内科 助教 池永 寛樹